

## 平成30年度 第3回 淀川区子ども教育会議 議事要旨

日時 平成31年3月11日(月) 19:00~20:30

場所 淀川区役所 5階 503会議室

出席者 委員：岡田 崇 氏

久保 みのり 氏

泉水 清治 氏

辻川 松子 氏

出口 和彦 氏

平澤 拓也 氏

増田 裕子 氏

事務局：淀川区担当教育次長	山本 正広
淀川区教育担当部長	中喜多 孝之
淀川区教育担当課長	榊原 幸一
大阪市立東三国中学校長	宮脇 敬市
大阪市立北中島小学校長	俵 正典

傍聴：0名

### 《会議資料》

資料1 ヨドネルに係る睡眠週間(月間)等の設定について

資料2-1 淀川区役所教育支援担当 2019年度実施事業一覧

資料3 区内の教育行政に関するアンケート

参考資料 分権型教育行政について

資料4 子ども見守り放送のリニューアルについて

資料5-1 報道発表資料 質の高い学校教育を推進するための仕組みづくりをすすめます  
—教職員の教育力向上の取組みの強化—

資料5-2 スクールサポートスタッフ、部活動指導員、スクールロイヤー事業(新聞報道より)

資料6-1 平成30年度第3回教育行政連絡会(小学校)議事要旨

資料6-2 平成30年度第3回教育行政連絡会(中学校)議事要旨

### 《次第》

司会：教育担当課長

◎次長(区長)あいさつ

◎議題

《1 ヨドネルに係る睡眠週間(月間)等の設定について》【公開】

《2 2019年度 教育支援関係事業について》【公開】

《3 その他》【公開】

・説明：区長、教育担当

・各議題について意見交換

## 挨拶

### 山本次長（区長）

こんばんは。本日は夜分お忙しいなか、子ども教育会議にお集まりいただき、ありがとうございます。

新聞報道されている件についてだが、金曜日にも緊急所属長会議において市長から進退についての話があり、感謝の言葉を述べられ、今から議長のところへ辞職願を出すとのことだった。心配された予算については議決された。

本日も 2019 年度の子どもたちへの取組についてご報告させていただくので、真摯なご議論をよろしくお願ひしたい。

## 議題 1 ヨドネルに係る睡眠週間（月間）等の設定について

### 榊原課長

子ども教育会議の委員のみなさまにご意見を受け、その後、小中の校長先生方と教育行政連絡会の場でも話し合い、睡眠週間や月間を設定していくのがよいのではないかとのご意見をいただいた。7月か12月という時期の話があったが、7月は暑くて眠りにくいのではないかとのご意見もあったので、来年度は12月をヨドネル月間として、各校でヨドネルウィークなどの取組を進めていただくとともに、区役所でも何らかのイベントや講演会を実施し、各家庭でも取組んでいただこうと考えている。

もう一つ議論されていたヨドネルの日については、今後ヨドネル月間の取組を進める中で具体的に何をやっていくのかを考え、議論しながら進めていきたい。

初めての取組となるので、具体的に学校でどんな取組をするのが効果的なのか、保護者や家庭の中でどういう取組をしていただけるのか、地域でどんな取組をしていくのがよいのかなど、今後の会議の中で積み上げていきたい。また、区の方に対してどういう取組をしていくのがよいのかも含め、12月のヨドネル月間の設定についてみなさま方のお考えをお聞かせいただきたい。

### 出口委員

PTAを通じ学校から睡眠に関するデータのフィードバックはしていただいております、ある程度知識はある。結果的には同じかもしれないが、小中学校での取組み方、道筋を作る方法は違うと思う。例えば中学校1年生と受験を控えた3年生、また小学校1年生と6年生では（年齢）差があるので、学校が中心に展開する必要がある。良い睡眠をとるためにどうしていくかが大事だ。中学生の一番の問題はスマートホンだと思う。塾等で帰宅が遅れ、その後学校の宿題をしてスマートホンをさわるので、当然寝る時間が遅くなり、睡眠時間が短くなる。スマートホンなど障害になる部分をどういう形で使うのかを先に取組み道筋をつけ、強化月間のようにしていければよい。子どもたちが子どもたちでルールを作るのがよいと思うので、生徒会中心で取組んでいただくのがよいが、その場合は先生方も入っていただかないと子どもたちだけではなかなか進めていけないと思う。学校の先生はお忙しく調整が難しいだろうが、そこは区役所でたたき台を作り、場所を提供していただければありがたい。例えば6中学校の生徒会が集まって話し合うのがスムーズにいくと思う。

### 榊原課長

ありがとうございます。大変良いヒントになってくると思う。

### 山本次長（区長）

29年度の夏休み前の最終の日に、区内の6中学校が新北野中学校の音頭のもと区長を囲んでヨドネルサミットという意見交換会を行った。ヨドネルを進めるためのスローガンやキャラクターについて話し合ってくれたことがある。新年度、ヨドネル月間の取組をするので、校長会の場でご相談してもよいかと思う。

## 榊原課長

12月が来る前に、生徒のみなさんが自主的に取組むよう今後検討して進めていければと思う。

## 辻川委員

ヨドネルの取組についてはとても良いと思う。子どもの睡眠は家庭教育の部分でもとても大事だ。区役所だけでなく、PTAや、元気アップなどの広報誌も使いながら、見える化を進めていくのはとても大事だ。当方の小学校の場合、毎回はぐくみの新聞にがんこおやじ夢さんが出てくる。子どもたちには知らず知らずのうち目に入るので、このようなきっかけ作りを回りから働きかけていく必要がある。PTAの広報を使って取組むのもとても大事だ。

## 榊原課長

ありがとうございます。

## 増田委員

新東三国小学校の子どもたちが地域と一緒に挨拶週間に取組んだが、その時の感想として「挨拶するためには早寝早起きをしてみたら、とても気持ちよい一日を過ごせた」と書いた子どもがいた。ただ挨拶するだけでなく、笑顔で挨拶をして向こうからも笑顔で挨拶を返してもらうためには時間的な余裕が必要で、そのために生活習慣をきちんとしなければいけないという結論をみんなで共有した。各学校でも挨拶週間は実施されていると思うし、児童会で感想を集計していると思うので、そこにある「睡眠が大事だ」というキーワードを逃さずひろって、地域や小学校、PTAの広報に載せることは有効だと思い、この場で共有させていただく。

## 榊原課長

ありがとうございます。異なる取組からもキーワードを引っ張ってきて投げていくのは非常に大事だと思う。

## 岡田委員

ヨドネルの取組はとても良いと思うが、受験を控えた中学生に求めるのは正直しんどい。私の長男が中学生の時、規則正しい生活を重視する性格で毎日きっちりと生活していたが、結局は高校受験の時に寝ずに頑張っていた他の子どもに学力で負けている。次男が中学3年生で今度受験予定だが、今度は寝ずに頑張れと言ってしまう。ヨドネルを全員に当てはめる、特に中学3年生にあてはめるのは無理があると思う。

## 出口委員

大学生、高校生、中学2年生の娘が3人おり、受験を経験してきたが、子どものスタイルがあると思う。長女は集中できる時間が夜中1時頃で、その時間に受験勉強をする。2番目の娘は8時、9時頃に勉強していた。今回のヨドネルにしても、100%おさえることは難しいと思う。家庭環境にかなり左右されると思うので、早く寝るのも大事だと思うが、睡眠時間、6時間なら6時間寝るところを大事にした方が良いと思う。

## 岡田委員

今の方針では小学生には当てはまるが、中学生には無理かなというのが正直な感想だ。

## 辻川委員

ヨドネルが早く寝ること、起きることが目的ではないのではないか。受験期には受験期なりの多様な寝方や家庭環境があると思う。基本的には早く寝ましょうというスタンスを出さないといけない。夜中までスマホをさわって学校に行けない状態の子どもが今、随分増えてきている。朝起きることができない、先生方が迎えに行ってもなかなか起きてこない子どもたちを少しでもなくすという意味でヨドネルが有効だと思う。

## 榊原課長

ありがとうございます。

## 久保委員

みなさんがおっしゃられたように、年齢によっても全然違うと思う。睡眠の質を上げること、例えば、こんなことをしたらぐっすり眠れるとか、眠りにつきやすい方法をこちら側から提案できればと思う。その中から自分に合ったものを本人が見つめることができればすっきりするし、受験の大事な時期も自分の力を発揮できるのではないかな。

## 榊原課長

ありがとうございます。人それぞれベストの睡眠があるようで、水野先生も講演会で試してみてくださいとおっしゃっていた。寝たものの、寝すぎてしんどいとか、起きたら寝足りないとか人それぞれで、ぜひベストな睡眠を探してほしいとお話があった。2年にわたる大規模調査では受験期の中学3年生は対象から外した。できれば寝てほしいが、高校受験という自分の未来がかかったイベントもあるので、柔軟にしているところ。いただいたご意見を踏まえ、進めさせていただきたい。

これまで市大の水野先生と協定を結んで進めさせていただいたヨドネルについて、今度は寝具で有名な西川株式会社と連携し、3月19日に区役所で協定締結式を実施する予定で、記者向けに3月8日付報道発表資料をしたところだ。今後は手法を変えていく。西川株式会社とは具体的に何をするかはこれからだが、当面は印刷物を作ることを考えている。今まで区役所でできなかったものを民間のアイデアを取り入れ、先ほどご意見をいただいたような見える化をしていきたいと考えている。協定の内容もざっくりしたものなので、寝具メーカーならこんなこともできるのではないかなというようなアイデアもいただけると、この三者協定の中でも話をしていくことができるので、メールや電話で区役所まで教えていただきたい。元々、西川さんと市大とは連携していたので、三者で連携していこうということになった。

みなさんからいただいたご意見を踏まえ、12月にヨドネル月間を設定していくので、PTAなどでも考慮していただければありがたい。

## 議題2 2019年度 教育支援関係事業について

### 榊原課長

来年度の予算について当面は、予算要求の内容で進めていけるとのことで、みなさまにお知らせするとともに、昨年度より変更のあった事業について主に説明させていただく。

淀川区英語交流事業について、例年夏休み最後の日曜日に淀川区役所においてオールイングリッシュで楽しんでいただく English Festival、いわゆる英語村というイベントを実施しているが、来年度は小中学生向け英語舞台発表ワークショップを実施するため予算を増額している。これまで2月に中学生向けスピーチコンテストや小学生向け暗唱大会を実施していたのを一旦休止していたが、アンケートで復活の要望があったので、8月のイベントの午前中に舞台発表の練習をして、午後に舞台発表をする場を作ることを考えている。現在プロポーザルをして、事業者の作っていただいた企画書をもとに選定する予定で、今後具体的な内

容が決まってくる。

小学生補習充実事業は各小学校の希望校が放課後に有償ボランティアによる勉強会をしていただくものだが、実施校について2校の減、3校の増があり変更が生じている。減の学校についてはボランティアの手配が難しいことから一旦休止すると聞いている。

はぐくみネットの変更についてだが、小学校で自尊心を向上させるという観点で実施している講演会について地域と連携してやっているので区役所で支援していただきたいという要望を受け、はぐくみネット事業に予算を計上した。自尊心を向上させる講演会や放課後学習会を実施の際に利用していただきたい。

人権啓発推進事業についても予算を増額している。自立心を向上させるための講演会に資するための事業を行う際に区役所の予算を使っただけのよう、予算を増額した。こちらは主に学校で人権にからませて自尊心の育成、自分を大切にすることによって他人も大切にするような観点での講演会を実施される際、利用していただきたい。

ヨドネルについて、これまでの会議で睡眠の質の向上を考えてほしいというご意見をいただいていたので、西川株式会社、市大との三者連携の中で啓発リーフレットのようなものを作っていくと考え、予算を増額している。せっかくの三者協定なので、さらにみなさまからのご意見をいただくことでもっと内容をふくらませていければと思うので、よろしくお願ひしたい。

校庭等の芝生化事業については予算を減額している。従来、区役所予算と別どりの重点予算で芝生化を実施していたが、3年間という期限付きの重点予算が終了したことに伴い技術指導が終了し、予算額が変更となっている。地域の方でそれを維持するための費用については、引き続き区役所で予算どりをしている。

淀川区学力向上支援事業～淀川漢字名人育成計画～について今まで中学生を対象に実施してきたが、来年度からは区内の小学校5年生も受験対象として取組んでいく予定で、予算を増額している。

その他の事業については従来どおり予定して進めさせていただく。ご質問やご意見があれば、いただきたい。

#### **増田委員**

人権啓発推進事業に関してだが、人権啓発推進員という方がいらっしゃるのか。

#### **榊原課長**

はい。いらっしゃる。辻川委員がやっただけでいる。従来は大阪市の組織とは別の人権推進委員があって独自に組織立ててやっただけでいたが、今年度からその委員の方を市長が委嘱し、市に取り込んだ形になった。正式に市の組織のような形になっている。

#### **増田委員**

講座には専門講座などがあるのか。

#### **辻川委員**

次代を担う少年少女の事業に関わりながら、勉強したものを各小中学校からの希望に基づき出向いて講座を実施している。

#### **榊原課長**

各学校でこんな講師を呼びたいという要望があれば、この予算を使って実施することが可能である。次代を担う少年少女に対する啓発活動プラス自尊心向上の観点の学習会も実施できる。

## 出口委員

漢検について先日の学校協議会でも話が出たが、せっかく区の予算を組んで実施してもらったのに、合格率があまり良くなかったのが、個人的にはショックだった。他の中学校はどうだったのか。学校では取組んでもらったと思うが、保護者や家庭には反映されていないような気がした。合格率を上げるためにやるわけではないが、せっかく予算を組んでやるからには、取組内容としてもう少し家庭におとしこんでやっていただく方がよいと思う。

## 榊原課長

了解した。家庭におとしこむような手立てを考えていきたい。今日、小学校の校長会で漢検の担当者が説明したところだが、学力に見合う級を受検してもらおうよう学校からも指導してほしいとお願いしたところだ。親としては高い級をねらってほしいという気持ちがあると思うが、合格がなかなか難しかったようだ。合格することだけが目的ではないが、自尊心向上のためには合格することも大切だと思う。

## 久保委員

子どもが受検させてもらったが、どうせ受けるなら合格してほしいだったので、早い時期から問題集を買っていたのに、将棋の習い事の方が楽しいようで、漢検の勉強は直前にやっていた。本人のやる気をどう引き出すかが難しいと思った。小学生の子どもは先生から言われたら頑張ると言っているのだから、親が言うより先生のおっしゃることは素直に聞くのかなと感じた。

## 辻川委員

学校の取組を見ていたら、1週間のこの曜日は英語のチャレンジタイムで、1時間目が始まる前の少しの時間を使って英語を耳で聴いたり話したりし、別の曜日はチャレンジノートなどを使うことで、小学校の漢検につながるのかと思っている。学校は短い時間を使い工夫した取組をされているので、おもしろい。

## 岡田委員

英語交流事業について今一つ周知されていないし、認知度が低いと感じる。世界基準で言うと、小中高と英語を習い英語を話せないなんてことはあり得ない。せっかく予算を増額してもらっているのだから、少しでも子どもたちに英語を話せないといけなないんだということを伝えるイベントにしてもらえたらありがたい。

出前授業は非常にありがたいので、ぜひ継続していただきたい。

## 榊原課長

了解した。主に体力の出前授業についてはこどもヨガや形にとらわれないダンスなど、取り入れていただいている学校からは好評を得ているので、引き続きやっていきたい。

## 岡田委員

小学生は非常に興味を持つので、新しいものを取り入れていただければありがたい。

## 榊原課長

先日も淀川スポーツセンターでイベントを実施し、非常にたくさんの方に来ていただき盛り上がったので、よいかと思う。英語のイベントは良い面と悪い面がある。低学年の子は会場がいっぱいになる位たくさん来てくれて、ネイティブの人に積極的に行くが、高学年や中学生になると自我が芽生えるのか、なかなか来てもらえない。低学年の子どもには英語が楽しいと思えるイベントになっているが、それを高学年や中学生

につなげるものにするためにどうしていくのがよいのか考えていきたい。

#### 岡田委員

例えば、区役所でやるのではなく、毎年、学校単位で順番に持ち回りでやったらだめなのか。その方が学校行事として、もっとたくさん参加するのではないか。

#### 榊原課長

確かに、学校の先生からも各学校でやってほしいという声も出ているが、今後の検討課題とさせていただきたい。中学校単位ならできるかなと思うが、17校持ち回りはいつ回ってくるのかなという感じなので、難しいかもしれない。

#### 岡田委員

木川南なら区役所が近いからよいが、遠い所からはなかなか来ていただけないと思う。

#### 榊原課長

了解した。それも検討させていただきたい。

#### 平澤委員

淀川区発達障がいサポート事業について、具体的にはどのような内容のサポートなのか。

#### 榊原課長

校外学習に付いて行ったり、登校時に玄関で迎え入れ靴を履き替えさせて教室まで送り届けるなどを当初サポートしてもらっていた。その子たちは、授業時に立ち歩くため、外まで追いかけると授業にならず、教育委員会から支援していただいているサポーターだけでは十分足りないため、学校の先生からのリクエストにより着席支援という名目で授業は教えないという前提で教育委員会に認めてもらった経過がある。その後は、利用率が高まった。話を聞くよう声かけをしたり、授業中にしんどくなったら、外に連れ出すなどのサポートをしていただいている。

#### 平澤委員

各学校でひまわり学級があったり、併用的な予算という取り扱いになっているのか。

#### 榊原課長

そのような学級に行っている子どもも授業に入れる子どもはできる限り授業に入れている。例えば10分程度ならじっとできて、10分を超えたら立ち歩きたくなるような子どもには、もう少し我慢しようねと声かけしてもらっている。

#### 平澤委員

授業参観でも親同士の話の中で、授業がまとまらないという声が正直あるので、そういう方が付いていただくことで授業が円滑に進むし、その子が着席することで少しずつ慣れていくと思うので、ぜひ続けていただきたい。できる時は自分の学級に入ってチャレンジしていくことができる、そういう取組がとても大事だ。日々互いに関わって声かけをしたり、どんどん慣らしていくために、このような事業をぜひ継続していただきたい。

## 榊原課長

頑張って解釈を広げ、その結果利用率が高まっているが、利用率が上がり過ぎて予算がかなり逼迫してきており、ありがたい反面、予算が厳しくなっている。

## 平澤委員

東三国でも何年も登校しなかった子がいて、学校の先生が苦勞されている。ここはしっかり予算を取っていただきたい。このような仕組みがあれば、学校からも PTA からももっと声をかけることができると思うので、よろしくお願ひしたい。

## 榊原課長

了解した。ありがとうございます。

次に、来年度の主な事業日程をご参照いただきたい。

## 議題3 その他

### (1) 区内の教育行政に関するアンケートについて

#### 榊原課長

事前にお渡ししていた区内の教育行政に関するアンケートについて、本日回収させていただきたいので、よろしくお願ひしたい。

### (2) 子ども見守り放送のリニューアルについて

#### 榊原課長

小学校の校長先生と議論しながら、子ども見守り放送を実施しているところだが、一部の区民からかなり耳障りだというご意見もいただいていた。我々も実際にご意見の出た現場に行かせていただいたところ、確かに様々な事由で音がきつい部分もあったので、放送時間を短縮し、BGM よりもメッセージを主だった形にして2月19日から放送内容を変更している。現時点で苦情も出ていないので、苦情を申し立てられた方々にも一定許容していただける内容になっているかなと思う。みなさまの方からもご意見を寄せていただいたら、どんどん修正をかけてブラッシュアップしていきたい。

### (3) 大阪市の報道発表や新聞報道について

#### 榊原課長

来年度の教育の主だった予算についてご説明する。学校現場が非常に多忙であり、何らかの対策はないのかといったみなさま方からのご意見や、苦情申し立てで来られる方への対応に苦慮しており、学校に弁護士を配置してほしいという要望もあってか、弁護士を配置する制度が教育委員会で予算化された。また、学校の補助スタッフの配備、部活指導員の拡充など、学校現場の負担軽減となるような予算が計上されたことについて、情報提供させていただく。

### (4) 第3回教育行政連絡会（小学校・中学校）議事要旨

#### 榊原課長

小中学校の校長先生と区長をはじめ区役所と会議を実施し、主にヨドネル月間や来年度の予算のご説明内容を議事要旨としてまとめさせていただいた。

何かご質問などあれば、お聞かせいただきたい。

## 久保委員

分権型教育行政について「保護者や区民の声をくみ取りながら」とあるが、1月29日に教育委員会の方針で学力経年テストとチャレンジテストが校長先生の人事評価や加算配付に関しては目標達成校へ配付する



方針を打ち出されたと新聞報道された。個人的にはその子がテストを受けて自分の苦手な部分を把握し、自分で確認するのがテストだと思っており、テストというもののあり方が違うような気がする。テストの結果がそういうところに使われるのは少し違和感がある。周りのお母さま方も同じように思っておられるので、もし可能であるなら、いろいろな保護者の方のご意見やこの声をくみ取っていただけたらありがたい。

#### 榊原課長

ありがとうございます。貴重なご意見だと思う。

#### 山本次長（区長）

昨日、辻川委員も同席された野中小学校の学校協議会で、運動能力について50m走のタイムが女子より男子の方が遅いことが話題になった。ハンディのある子は何秒かで走れるところを3分かかって走る。「基本的に大阪市はインクルーシブ教育で、ハンディのある子もない子も一緒に走り、一切記録も排除しない。その影響もあるのではないか。」と、校長先生が説明されていた。協議会委員の中でも議論されたが、「比較する以上はすべて基準をそろえないと比較できないのではないか」とか、「そもそも比較するのはよろしくないのでは」といったご意見があった。私としては、大阪市が進めていくインクルーシブ、みんな一緒にという教育は素晴らしいと思っている。数字だけで全部が語られてしまって、数字を上げるがために、例えば学力試験の時に休むような雰囲気にもっていくことがあっては絶対ならないと思う。区の教育担当次長としてはこうしたご意見をしっかり受け止め、趣旨を貫いていくよう努力をしなければならないと申し上げたところだ。市長のインタビューを見ていると、頑張っているところは評価すべきではないかということのようだが、数字だけで判断してしまうと弊害も大きいかなと私自身も感じているところだ。

#### 平澤委員

経年テストの結果で評価すると、極論そこしか評価しない傾向が全国にある。力を入れている都道府県は非常に点数が高い。校長に対する評価については数値のスケールをしっかりと決めていく中で、出した結果に対するインセンティブが大きすぎるので、もう少しやらかいところから入っていてもよいと思う。

#### 久保委員

経年テストはその子のカルテのようなものと認識している。それを活用し点数を上げていこうというものだと思うが、学ぶことはテストだけではないと思う。子ども達自身のテストであればよいが、それが大人の都合で大人の評価に使う点に保護者としてはなんとなく違和感がある。テストだけではなくいろいろなところを総合的に見ての学びだと思う。他のお母さま方の中にもテスト、テストになるのではと不安がっておられる方がたくさんいらっしゃる。

#### 辻川委員

私も区長と同じく野中小学校の学校協議会で意見を述べさせていただいた。子どもの自尊心を育てるためには先生自体に自尊心を持っていただくことがとても大事で、保護者にも同じことが言える。よその評価と大阪市の評価は基本的に違うと思うので、それをおしなべて校長先生の評価とするのは若干違うのではないかな。そこを改善しないと、大阪市の教育は向上しないと思うし、子どもの自尊心を育むことに行きつかないと思う。

#### 増田委員

分権型教育行政について「身近な区が教育委員会とともに、保護者・区民等の声をくみ取りながら施策を

実施する」と書かれている。久保委員のおっしゃったことはこれに当てはまっていないのではないかと問うてほしい。「学校や地域のより近くでニーズのあった教育施策」であれば、各校区の特徴、例えば〇〇を目指そうという話し合いがあつてしかるべきだが、そういうことをしてこなかったという反省もある。話し合いの場を設け、上にあげていくものであれば分権型教育行政なのかと思う。

#### 榊原課長

理念的なご意見だと思う。ありがとうございます。

#### 岡田委員

数字で評価されるわけなので、子どものためではなく教師の都合になっているのかと言えば、違う気がする。ただ、日本は技術力で成長してきた国なので、勉強ができないとこれから生き残っていけない。今の日本は学力が落ちてきているから、世界にどんどん抜かれている。勉強のできる子には勉強を伸ばしてあげ、スポーツのできる子はスポーツを伸ばしてあげ、芸術のできる子はそれを伸ばしてあげるようなシステムを国全体で作ってもらえたらありがたい。

#### 榊原課長

ありがとうございます。非常に貴重なご意見だと思うので、身近な区が意見をくみあげていく使命の重さを痛感している。すぐに変えることとは難しいと思うが、スモールステップを踏みながら、また課題提起を受けてみなさんと話し合いをしながら今後やっていきたい。

今日は小中学校の幹事校長にも来ていただいているので、今までのお話や最近の思いなどについてお話いただければありがたい。

#### 俵校長

活発な議論、特にヨドネルに関する受験生の話はなるほどと思いながら聞かせていただいた。最近になって、睡眠の質を保つことについて考えるようになった。土日に出たあとは昼間に非常に長い時間寝てしまい、夜に寝られないということがあった。寝すぎもいけないという水野先生のお話もあるので、最近は時間を30分と決め目覚ましをかけて寝るとすっきりするし、夜も眠ることができるとわかった。知識をもつことは子どもたちにもプラスになり、受験期にも睡眠時間の短さを補える技術が身につけば、睡眠時間の長さに関係なく子どもの力になるのではないかと思う。

発達障がいサポーターの件は大変ありがたい話で、なかなか人を見つけることが難しいが、制度のあるおかげで校外学習などでの手助けは非常に助かっている。制度が周知され申込が増えてうれしい反面、それに見合う予算は来年度確保できなかったということだどご理解いただきたい。

校長評価の件は学校としてはなかなか言いにくい面もあるが、今日は学校のいろいろな現状を知っていただいたうえで学校に対する熱い思いが聞けて、とてもありがたい。いろいろな人がいて世の中が成り立っているのであれば、子どもたちのいろいろな特徴に合わせて今後もやっていきたい。

今日は大変ありがたいお話を伺うことができた。ありがとうございます。

#### 宮脇校長

ありがとうございます。お話を聞いていろいろな思いを持っておられることが分かった。聞けば、よく寝て、運動はでき、英語を話すことができ、漢字は書け、学力も高い、というようなものすごい子どもを求めている。我々教員も含め大人は子どもたちに過大な期待を寄せ、子どもに全てを求めているんだなと思い、なかなか難しいと感じた。分権型教育行政は始まったものの、まだ中途半端で、結局は学校に対し市教育委

員会の各部署から、また区役所からも山のような指示が来る。教頭が倒れないかと心配するほど、毎日アンケートがやって来る現状で、働き方改革をどう考えるのかと思う。毎日子どもが笑顔で学校に来て、伸び伸びと自分の学習ができて健全に育成していくことが一番だと願っている。特に中学校は入試があるので、大切な時期だと思う。

ヨドネルについてだが、中学生ではスマホのトラブルが非常に多く、保健委員会の調査結果からは男の子に比べ女の子の睡眠時間が6~7時間位と短い。ただ寝なさいと言っても効果がないと思うので、スマホを睡眠の障がいになるものとしてセットで考えていくべきだと思う。生活習慣や生活態度を見直すことがヨドネルの取組につながるのではないかと。小学校の低学年のように中学生は聞いてくれないが、自分のことを考えてもらうよう呼びかけていく啓発はとても大事だ。食育も同じで、自分の健康に結びついていると思う。

漢検の取組は非常に良かったが、おっしゃるとおり本校でも2~3割程度と合格率が非常に低かった。以前赴任していた小学校でも取組んだが、合格率はもっと高かった。最近の入試でも英検や漢検、数検の級を持っていると、入試の点数をもらえる私学が多くなってきている。本人の意識が高く、準2級程度を受験する子は家庭でも意識が高いので、合格する。1回も受験したことのない子や興味のない子は初めて受験した子は不合格になってショックだろうと思うが、次回の頑張りにつながればよいと思う。たとえ不合格でも、1つでも多く漢字を覚えることは一生役立つことなので、合格、不合格に関わらず良い取組だと思う。今回は国語の先生が漢字テストに力を入れてくれたが、漢検の勉強とは少し違ったようだ。来年度に向けて対策できればよいと考えている。

英語について、今年4月の全国学力テストから話すテストが導入される。パソコン室に行って10分位画面を見て、マイクを通じ英語で話す答えをUSBに保存し送り返して採点される。大学入試の傾向もそうだが、英語は話せないといけなくなってきており、今後も機会をとらえて取組んでいきたい。

経年テストやチャレンジテストについて、大阪市の学力が毎年上がらないために、指標や計算式が山のように来るが、得点を挙げるのはなかなか難しいと思う。全国学力テストが高校入試に使われる年が過去1回あり、その年だけ得点が上がったのを見ても、何かがないと難しいようだ。地道に取組むしかないと思う。人を育てるのは人。人材を確保することが難しい。我々もテストの結果を上げたいのはやまやまだが、それ以前にやるべきことがたくさんある。例えば毎日の授業が成り立っているのか、暴れている子はいないか、笑顔で毎日来ているかなどに注力していて、なかなかできないのが現状だ。

いろいろお話を聞きながら、教職員も頑張っていきたいと思うので、今後ともよろしくお願ひしたい。

## 榊原課長

ありがとうございます。他にご意見はないか。

## 泉水委員

ヨドネルの三者協定締結後にお願いしたいことがある。著作権の問題があるかもしれないが、安眠できるような音楽やメロディーを淀川区役所のホームページでダウンロードできるようにすれば、子どもだけでなく区民も興味関心を持ってくれるのかなと思う。また、子ども向けに安眠できる枕を作れたらよいと思う。枕の高さによって安眠できたり、昔から言われるそばがらを使った枕があるのかないのかも検討していただきたい。もし安価にできるなら、はぐくみネットを使って地域で枕を作ることができるので、教えていただきたい。

英語のイベントについて、低学年には好評だという話だったが、それを逆手にとって低学年をとりこんでいただいた方がよいのではないかと。英語は幼少期に聞いた発音が脳に残るので、聞いてなければ大人になっても発音できない。幼少期の頃にできるイベントがあってもよいと思う。

**榊原課長**

ありがとうございます。貴重な具体的なご意見だったので、12月に間に合うようにヨドネルについては三者で検討していきたい。

**岡田委員**

そばがらの枕がよく眠れる。やわらかい枕よりつぶつぶ感が気持ちよい。ただ、子どもは違うかもしれないが。

**榊原課長**

今後調べていきたい。本日はありがとうございます。引き続きよろしくお願ひしたい。